学校だより　　平成２７年１１月号

かつき

志布志市立香月小学校

子どもの確かな成長をみつめて

校　長　　中條　健一郎

一雨ごとに景色は冬の様相を深めていく。校庭の木々も木の葉を落とし，冬の身支度を始めているようだ。「おはようございます。」毎朝，子どもたちの元気な声が玄関に響き渡る。

６年生が最高学年らしく，礼儀正しい挨拶をし，朝のボランティアで庭掃除を颯爽としている。他学年も同じように朝の清掃を始める。おかげで，すがすがしい気持ちで学校生活がはじまる。

２学期は，集団宿泊学習，陸上記録会，修学旅行，学習発表会や市の音楽発表会，校区文化祭，PTAバザーと多くの行事があった。

この一つ一つの行事のために，子どもたちは一丸となって最高のものにしていこうという気持ちをもって取り組んでいた。どれをとっても，心に残る行事であった。これらの行事は，子どもたちの心を大きく成長させた。６年生は６年生らしく。５年生は５年生らしく。１年生には，入学当時のあどけなさはもう無い。しっかりした小学生の顔になっている。多くの行事を越えてきた子どもたちは，落ち着いて，２学期の終わりを締めくくる身支度に入ったようだ。

県民週間では，大勢の方々が学校を訪れ日々賑やかな一週間であった。学校に対する関心の高さや地域や保護者の期待感を強く感じることができた。

「普段の授業参観ではみられない子どもたちの様子を見ることができてうれしいでした。」と保護者の声を聞いた。遠くから孫の姿を見に来たというおばあさんもおられた。休み時間に，自分たちで並んで図書室に移動したりトイレのスリッパをしっかり並べたりしいる子どもの姿があった。家庭では見せない子どもたちの凜とした姿に多くの方々に感動していただいた。まさに「家庭・地域と共に子どもを育てる。」このことを互いに確かめる場になったことはうれしい限りである。

子どもは，一朝一夕には育たない。日々の積み重ねの上に今がある。夕方，弾むような声で「今日はお母さんが学校に来てくれたんだよ。ちょっと恥ずかしかったけど，うれしかった。」そういって，小走りで帰って行く子どもの背中を小さくなるまで見送った。きっと家に帰って家族にも今日のことを語り合うことだろう。そう思うと温かな気持ちになった。

地域や家庭と共に子どもの確かな成長を確かめながら，さらに大きな飛躍が遂げられるよう職員一丸となって香月の教育を推進していきたい。